

2018年5月8日

各 位

東京都台東区上野1丁目15-3

 会 社 名 **株式会社 ナガホリ**

 代表者名 代表取締役社長 長堀慶太  
 (コード番号 8139 東証第2部)

 問合せ先 常務取締役管理本部長 田端 馨  
 (TEL. 03-3832-8266)

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成30年2月9日に公表いたしました平成30年3月期連結業績予想及び平成29年5月19日に公表いたしました平成30年3月期個別業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

なお、配当予想につきましては、前回発表から変更ございません。

#### 記

#### 1. 業績予想の修正について

##### (1)平成30年3月期連結業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	20,000	180	120	100	6.52
今回発表予想 (B)	21,199	73	18	57	3.72
増減額 (B - A)	1,199	△107	△102	△43	
増減率 (%)	6.0	△59.4	△85.0	△43.0	
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	21,539	145	94	△51	△3.38

##### (2)平成30年3月期個別業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	12,000	80	90	5.86
今回発表予想 (B)	12,445	△106	△141	△9.19
増減額 (B - A)	445	△186	△231	
増減率 (%)	3.7	-	-	
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	13,240	47	△52	△3.41

## 2. 修正の理由

ジュエリー業界は、景気の先行き不透明感での消費者の節約志向の流れが変わらない中、インバウンドによる消費と富裕層顧客による消費は堅調でありましたが、一方でボリュームゾーンである中間層の消費者の買い控えは変わらず長期化し、消費の二極化は続いております。期初の落ち込みのカバーと業績の底上げのため、富裕層を主力とする百貨店向け卸売事業、地方拠点強化と「量より質の追求」による効率強化を進める卸売事業、「選択と集中」として不採算店の閉鎖による採算性改善を目指した直営小売事業において、それぞれの課題に対応した機能強化を図りました。特に百貨店向け卸売事業では、富裕層向け商品を中心とした展示会の開催等を含め積極的に販促費を投入した営業活動を行いましたが、投入経費に見合った利益確保には至らずとなりました。また、直営の小売事業につきましても引き続き不採算店舗の閉鎖等を行いながら、既存店ベースでの採算性改善に向け細やかな営業活動を行い、結果として売上高は当初予想を上回ることができましたが、対象顧客である中間層の節約志向は依然として強く、個別宝飾事業全体として原価率の予想数値比 0.6%増加、販売費の予想数値比 0.9%増加等を賄うことができず、営業利益、経常利益ともに通期の業績予想を大きく下回る結果となりました。

また、関係会社の業績不振も重なったこともあり、この対応として当社個別決算において、関係会社支援損 171 百万円を特別損失に計上したこと等により、誠に遺憾ながら当期純利益におきましても当初予想を大幅に下回る結果となりました。

(注) 当該予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。

実際の業績は、今後の様々な要因により変動する可能性があります。

以上